

感覚処理感受性と言語連想に関する予備的研究

串 崎 真 志 関西大学文学部

A Preliminary Study on Sensory-Processing Sensitivity and Word Association

Masashi KUSHIZAKI (Faculty of Letters, Kansai University)

Sensory-processing sensitivity is a personality trait of processing information (e.g. auditory, visual, tactile, olfactory) more strongly and deeply than others. Previous research has found individuals with high sensory-processing sensitivity (highly sensitive person: HSP) have a personality with intuitive dominant function categorized by Carl Jung. The present study investigated the hypothesis if the highly sensitive persons have a tendency to imagine intuitive words on word association test. University students ($N = 15$) were asked to take part in the Watchword technique (Daniels, 1992). After that, they completed the Highly Sensitive Person Scale-Short form and Nine-item Empath Scale. Results showed that there was no difference between high and low HSP groups in the number of intuitive words, but individuals with high sensory-processing sensitivity felt right about interpretations of watchword keys. Further research is needed to confirm and expand these findings.

Keywords: sensory-processing sensitivity, Jung's typology, intuition.

問 題

感覚処理感受性

世の中には感覚の鋭い人がいる。彼らは音に敏感であったり、微かな匂いを察知できたり、環境の小さな変化に気づいたりする。このように、聴覚・視覚・触覚・嗅覚などの情報を強く深く処理する傾向（人格特性）を、Elaine Aronは感覚処理感受性 (sensory-processing sensitivity) と呼んだ (Aron & Aron, 1997; Aron, Aron, & Jagiellowicz, 2012)。感覚処理感受性は神経症傾向 (neuroticism) や開放性 (openness) と関連し (Lionetti et al., 2019)、環境の影響を大きく受ける (environmental sensitivity) といわれている (Greven et al., 2019, 岐部, 2019; Weyn et al., 2019)。最近では、子育て (Aron, Aron, Nardone, & Zhou, 2019; Branjerdporn, Meredith, Strong, & Green, 2019) や起業意識 (Harms, Hatak, & Chang, 2019) との関連も報告されるようになり、日本においても、

感性に関する研究が進んでいる (岐部・平野, 2019; 越智, 2019; Takahashi, Kawashima, Nitta, & Kumano, 2019)

感覚処理感受性が高い人 (高敏感者 highly sensitive person) の特徴のひとつとして、物事を深く考える傾向がある。串崎 (2019b) によると、感覚処理感受性が高いほど、人生の意味について考える機会を日常的にもっていた。そして、感覚処理感受性が高い人は、人に対する敏感さもある。例えば、相手を見るだけで、相手の気持ちがわかるほどの直感をもつ一方、周囲のストレスフルなエネルギーを、いやおうなく自分に取り込んでしまうために、かなり気疲れする。これはエンパスと呼ばれる (Orloff, 2017a, 2017b)。エンパスは情動吸収 (emotional sponges)、気疲れ (emotional hangovers)、情動直感 (emotional intuition) という3つの特徴をもつとされる (串崎, 2019a)。

Jungの性格論

ところで、Elaine AronはCarl Jungの心理学の影響を受けている(Aron, 1996)。Jungは、リビドーの態度型(attitude-type)として外向(extraversion)－内向(introversion)を想定し、意識の機能(conscious function)として、感覚(sensation)－直感(intuition)、思考(thinking)－感情(feeling)という対立軸を考えた(Jung, 1971, para. 983)。Jungによると、思考は意味(what it means)を、感情は価値(what its value is)を見分ける機能(discriminative functions)である(Jung, 1971, para. 983)。また、感覚は実際のリアリティ(actual realities)、直感は潜在的なリアリティ(potential realities)に関心をもつ知覚機能(perceptive function)である(para. 953)¹⁾。

Aron & Aron (1997)は、Jungの性格論を元にした性格検査Myers-Briggs Type Indicator (MBTI)を、感覚処理感受性の高い大学生35名に実施した。その結果、24名が内向直感型、7名が外向直感型、4名が内向感覚型であった。McPeck, Martin, & Breiner (2016)は、MBTI certification coursesの受講者174名を調査した。その結果、Highly sensitive person scale (27項目版)の下位尺度のうち、易興奮性(ease of excitation)はMBTI内向($r = .35$)や判断($r = .21$)と相関し、低感覚閾(low sensory threshold)はMBTI内向と相関し($r = .26$)、美的感受性(aesthetic sensitivity)はMBTI直感($r = .24$)や感情($r = .28$)と相関した²⁾。いわゆる感覚過敏は内向と関連し、感覚を深く豊かに経験する美的感受性は直感や感情と関連することが読み取れる。また、Strickland (2018)によると、高敏感者には直感/感情型(INFP, INFJ, ENFP, ENFJ)が最も多いという。感覚/感情型(ISFJ, ESFJ)もそれに続く。そして、直感/思考型(INTP, INTJ)も多い。逆に、感覚/思考型(ISTJ, ISTP, ESTJ)はほとんどみられない³⁾。これらのことは、高敏感者の主機能(dominant function)が直感であることを示唆している。

言語連想

ところで、言葉の連想がその人の人となりを表すことは、昔から知られてきた。例えばSigmund Freudは、無意識を探求する方法として自由連想法(free association)を考案した(Freud & Breuer, 1896/2004)。Jungは、言語連想検査(word-association test)における反応時間の遅れ等が、コンプレックス

の存在を示すと考えた(Jung, 1973)。活性化拡散モデル(spreading activation model)では、意味的に類似した概念が相互にリンクされていて、一方が活性化されると、それが他方にも伝わり、連想が生じる(Collins & Loftus, 1975)。また、言語流暢性検査(verbal fluency test)のように、言語連想が、認知機能の測定手段として用いられることもある(吉村・前島・大沢・苧阪, 2016)。

このうち、Jungの言語連想検査を元にした自己理解技法が、Michael Danielsのウォッチワード・テクニック(watchword technique)である(Daniels, 1992)。ウォッチワード・テクニックは、言語連想を重ねていくことで、11の核となる言葉(watchword keys)を得る⁴⁾。ウォッチワード・キーにはそれぞれユング心理学的な意味が付与されていて、その意味を拡充(amplify)しながら自己理解を深める。ウォッチワード・テクニックに関する研究は少ないが、例えば申崎(2004)は、心理的に支えられているという感覚をもっている人(心理的支え高群)は肯定的な言葉を、そうでない人(低群)は否定的な言葉を連想する傾向を報告している。また申崎(2007)は、2人で実施する相互ウォッチワード・テクニック(mutual watchword technique)を考案し、相互法は自分の意外な側面の発見につながるとした。

Danielsによると、直感型の人は、物事の基本過程や内的可能性(basic processes and inherent possibilities)、元型的イメージや象徴(archetypal images and symbols)、絶対的普遍性(the universal absolutes of inner being)に関連したワードを連想するという(Daniels, 1992, pp.60-61, p.70)。直感型であるかどうかをウォッチワード・テクニックで見極めるのはむずかしいが、例えば、創造(creation)、犠牲(sacrifice)、充足(fulfilment)、成長(growth)、決定(decision)、信念(faith)、大志(ambition)などの言葉がみられるという(Daniels, 1992, pp.60-61)。また、11のウォッチワード・キーのうち、導者(guide)は直感的洞察(intuitive insights)に関連が深いとされる⁵⁾。

仮説

本研究では、感覚処理感受性の高い人(高敏感者 highly sensitive person)はJungの性格理論でいう直感機能が高いと仮定し、言語連想検査(ウォッチワード・テクニック)において、直感的なワードが

出現しやすいかどうかを検討する。また、感覚処理感受性が高いほど、ウォッチワード・キーの意味を直感的に捉えるので、その解釈をびったりくると感じやすい（適合感が高い）と予測される。

方法

参加者

心理学の演習科目を受講する大学3年生15名（男性5名女性10名）が参加した（実施時期2019年5月）。

手続き

授業の終わりに集団で実施した。まず、筆者が手順を教示しながら、ウォッチワード・テクニック（Daniels, 1992）を実施した。次に、参加者は11のウォッチワード・キーについて連想を1行程度で書いた。そのあと、筆者が11のウォッチワード・キーについて解説した。そして、参加者は11のウォッチワード・キーの意味（筆者の解説）が自分にどの程度びったりくるか（適合感）を、「全くびんとかない」を1、「非常にびったりくる」を7とする7件法で回答した。

質問紙

① Highly Sensitive Person Scale-Short form 11項目（Aron et al., 2010; Acevedo et al., 2014; Branjerdporn, Meredith, Strong, & Green, 2019; Meredith, Bailey, Strong, & Rappel, 2016）。高橋

（2016）から該当する項目3, 5, 7, 9, 14, 16, 19, 21, 23, 25, 26を使用した。

②エンパス尺度9項目版（Nine-item Empath Scale: 申崎, 2019a）。筆者が作成したもので、情動吸収（emotional sponges）、気疲れ（emotional hangovers, avoiding crowds）、情動直感（emotional intuition）という3因子からなる。両尺度とも「全くあてはまらない」を1、「非常にあてはまる」を7とする7件法で評定した。

結果

Highly Sensitive Person Scale-Short formは11項目の合計点を算出した。エンパス尺度は申崎（2019a）にならって、情動吸収3項目、気疲れ4項目、情動直感2項目の合計点を算出した。ウォッチワード・キーの適合感は、11項目について主成分分析を行い、その第1・第2主成分（累積寄与率47.7%）を元に、2つの主成分得点（不適合感、適合感）を生成した。第1主成分得点は、Persona, Shadow, Giant, Guideなどに負の負荷量をもつ不適合感と解釈し、第2主成分得点はBattle, Destiny, Soul, Spectreなどに正の負荷量をもつ適合感と解釈した。各尺度の平均値と標準偏差、相関係数を算出した（Table 1）。その結果、気疲れや情動吸収が高いほど適合感が高かった。Highly sensitive person や情動直感も、有意ではないが、適合感と中程度の相関係数があった。参加者ごとに各尺度の素点をTable 2に示した。

Table 1 各尺度間の相関係数 (N = 15)

	α	ω	<i>M</i>	<i>SD</i>	2	3	4	5	6
1. Highly sensitive	.85	.86	56.1	12.1	.353	.467+	.303	.054	.393
2. 気疲れ	.81	.83	20.8	5.8		.738**	.226	.159	.454+
3. 情動吸収	.78	.84	13.7	4.3			.317	.052	.667**
4. 情動直感	.70	.77	9.4	2.5				.279	.388
5. 不適合感			0.0	1.9					.000
6. 適合感			0.0	1.4					

注：不適合感は第1主成分得点、適合感は第2主成分得点を示す

Table 2 感覚処理感受性 (HSP) とエンパス尺度の得点

No	性別	HSP	気疲れ	情動吸収	情動直感	不適合感	適合感
1	男性	37	15	7	6	-0.28	-0.56
2	女性	45	15	4	6	-0.65	-4.33
3	男性	41	11	13	10	-2.54	-0.51
4	女性	65	13	9	14	1.07	-0.18
5	男性	66	25	18	10	1.12	0.81
6	女性	65	21	12	7	1.65	0.64
7	女性	59	23	15	10	0.13	0.13
8	女性	61	27	18	6	-2.20	-0.33
9	男性	30	25	15	10	2.13	0.77
10	男性	58	22	15	11	-1.21	0.20
11	女性	56	26	15	11	-0.63	0.13
12	女性	63	24	17	12	4.81	-0.61
13	女性	69	27	20	10	-0.99	1.11
14	女性	67	26	15	12	-1.66	2.23
15	女性	60	12	13	6	-0.74	0.49

次に、先行研究(申崎, 2019a, 2019b)を参考に⁶⁾, Highly sensitive person 尺度 65 点以上を高群, 41 点以下を低群として、直感的なワード(元型的イメージや象徴に関する言葉)の出現頻度を検討した(Table 3)。直感ワードか否かは、筆者が Daniels (1992) の記述に即して判定した (Table 3 のゴシック体)。その結果、直感ワードの出現は、感覚処理感受性の高低群で違いがみられなかった (Fisher's exact test: $p = .723 ns$, $\Phi = .048$, 効果量 $h = .098$, Odds ratio = 1.38)。

そして、Highly sensitive person 尺度、エンパス尺度と直感ワード数との順位相関係数を算出したが、いずれの数値も有意ではなかった (Table 4)。

Table 3 感覚処理感受性 HSP 順によるウォッチワード・キー

No	性別	HSP	巨人	小人	たましい	ペルソナ	導者	イマーゴ	影	亡霊	現在地	闘い	目的地
9	男性	30	怖い	外	運動場	スポーツ	教師	体育	雲	戦い	体育祭	ひきこもり	休み
1	男性	37	泣く	大食い	食い逃げ	負けた	怒られる	帰る	飲食店	大会	おごる	吐く	嫌
3	男性	41	波乱	禁忌	人間性	犠牲	離婚	中華	神話	犯罪	性悪説	終末	人類
2	女性	45	楽しい	バイク	ホテル	幸せ	テレビ	カラオケ	宿泊	食べる	旅行	おいしい	食べ歩き
11	女性	56	時間	テンション	楽しい	体調	ナイトプール	心配	映像	BTS	気にしない	趣味	好き
10	男性	58	川	花	地球	風船	水	風	土	ピンク	ガス	自然	火山
7	女性	59	葛藤	学校	走り書き	平和	忙しい	ふわふわ	字	自転車	おもしろい	悩み	大丈夫
15	女性	60	大地	草	宇宙	太陽	地球	憲法	睡眠	空	星座	四つ葉	人間
8	女性	61	こぐま	レジン	木の実	ろうそく	森	パンケーキ	モチーフ	花火	キャンプ	グッズ	使う
12	女性	63	昼食	祈り	仏教	ベッド	麺	パンプス	礼拝	リラククス	花	部屋	一戸建て
6	女性	65	だらだら	わくわく	夏休み	恋愛	夏	アニメ	席替え	学校	デート	休み	楽しみ
4	女性	65	ぴんく	田舎	花見	遠足	春	まったり	修学旅行	迷子	うきうき	花畑	安らぎ
5	男性	66	ギリシャ	貧困	湖	世俗	プール	神殿	冬至	パチンコ	お風呂	赤字	銭湯
14	女性	67	幸せ	東大	子供	壮大	マシュマロ	一生	頭脳	小説	冒険	頂点	冠
13	女性	69	休暇	体重	笑顔	宿題	夢	学生	正月	恐怖	完了	減量	自信

注：ゴシック体は直感ワードを示す

Table 4 各尺度と直感ワード数との順位相関係数 (N = 15)

	Spearman's Rho	Kendall's Tau-b
1. Highly sensitive	.144	.088
2. 気疲れ	-.230	-.189
3. 情動吸収	.258	.162
4. 情動直感	.218	.192
5. 不適合感	-.288	-.196
6. 適合感	.165	.153

注：いずれの数値も有意ではない

考 察

本研究の結果は次の2点であった。第一に、エンパス尺度の気疲れや情動吸収が高いほど、ウォッチワード・キーの解説に対して、有意に「ぴったりくる」と感じていた。また、Highly sensitive person 尺度や情動直感も、有意ではないものの中程度に相関していた。もしこの適合感が直感機能に由来するのであれば、感覚処理感受性は Jung のいう直感機能と関連する可能性が示唆される。第二に、予想に反して、直感ワード（元型的イメージや象徴に関する言葉）の出現頻度は、感覚処理感受性やエンパス尺度（情動直感）の高低群で違いがなかった。Highly sensitive person 尺度、エンパス尺度と直感ワード数との順位相関係数も有意ではなかった。ただし、係数の大きさから、情動吸収や情動直感が高いほど直感ワード数が多い可能性はある。直感ワードの判定基準を明確にしたり、サンプルサイズを増やすなどして、さらなる研究が必要だろう。

直感とは、人生の過去や未来を深く考えるための優れたリソースである。Aronによると、直感とは、情報を半意識あるいは無意識的な方法（a semiconscious or unconscious way）で処理するので、「どのように」がわからなくても、ただわかる（just know without realizing how）ことがしばしばあるという（Aron, 1996, p.7）。それゆえ、直感型の人が心の全体性を活性化（activating wholeness）するためには、むしろ、真逆である感覚機能（事実にごだわり、詳細を扱う）を伸ばすことが助けになるという（Aron, 1996, p.221）⁷⁾。感受性の感覚を磨き、自分の直感に自信をもつことが、豊かな人生の第一歩だと思われる。

注

- 1) この他にも、ユング派分析家 John Beebe は、Jung の考えた8タイプ（外向・内向×感覚・直感×思考・感情）に、それぞれ対応する元型を配置（arrangement of the archetypal complexes）させて、Jung の性格論を発展させている（Beebe, 2004, 2006a, 2006b, 2007）
- 2) Myers-Briggs Type Indicator では、外向E-内向I、感覚S-直感N、思考T-感情Fに加えて、判断J-知覚Pという軸もある。外界（outer world）に対処するとき、判断型は構造的な方法（a more structured and decided lifestyle）を好み、知覚型は柔軟な方法（a more flexible and adaptable lifestyle）を好む（The Myers-Briggs Foundation, 2019）。MBTIの結果は、それぞれの頭文字を取って、16タイプのいずれかで表示さ

れる。例えば、INFP は内向/直感/感情/知覚型を意味する。

- 3) これに関して、David Keirsey (Keirsey, 1998) の4気質 (Rationals, Idealists, Guardians, and Artisans) や、最近流行している 16personalities (2019) の4類型 (Analysts, Diplomats, Sentinels, and Explorers) は、少し異なる類型化をする。まず直感Nを含むか感覚Sを含むかによって2分類する。次にそのN群のなかで直感/思考NTを含む場合を Rationals (Analysts) 型、直感/感情NFを含む場合を Idealists (Diplomats) 型とする。同様にS群のなかで感覚/判断SJを含む場合を Guardians (Sentinels) 型、感覚/知覚SPを含む場合を Artisans (Explorers) 型と分類する。興味深いことに、外向・内向はそれぞれの気質型に含まれる。例えば、Keirsey の Idealists (16personalities でいう Diplomats) のうち外向ENFJ は teacher (protagonist)、内向INFJ は counselor (advocate) であり、両者はリビドーの向きが違うだけで同じ心理的機能だと考える。以上をふまえて、Strickland (2018) の見解を 16personalities でいうと、高敏感者には最も多いのがNF型4つ、そしてNT型のうち Architect と Logician、次いでSJ型のうち Defender と Consul である。
- 4) 11のウォッチワード・キーとその心理的意味 (psychological indications) を以下に示す。導者 (Guide: Higher intuitions)、イマゴ (Imago: Ego-ideals)、影 (Shadow: Repressed material)、亡霊 (Spectre: Problems and anxieties)、たましい (Soul: Basic inner personality)、ペルソナ (Persona: Basic outer personality)、巨人 (Giant: Driving forces)、小人 (Dwarf: Inertial tendencies)、現在地 (Station: Sense of basic selfhood)、闘い (Battle: Personal task)、目的地 (Destiny: Realized self)
- 5) Daniels (1992, p.61) は、導者 (Guide) の一般的な意味 (general indications) を次のように述べている。Higher self. Sense of inner teacher. Inner power or greatness. Intuitive insights. Dominant sense modality. Main source of inspiration or enjoyment. Inner qualities that need to be fully acknowledged or developed. Conscience. Moral principles. Ideology. Message from the unconscious. The direction of unconscious striving. Jungian mana personality.
- 6) 申崎 (2019a) 研究1 ($N = 191$) のHSP尺度合計点は、 $M = 52.3$ ($SD = 10.4$)、研究2 ($N = 171$) のHSP尺度合計点は $M = 53.1$ ($SD = 10.0$)、気疲れ4項目は $M = 19.6$ ($SD = 5.23$)、情動吸収3項目 $M = 12.4$ ($SD = 3.9$)、情動直感2項目 $M = 8.06$ ($SD = 2.38$) であった。申崎 (2019b) のHSP尺度合計点 ($N = 126$) は、 $M = 52.9$ ($SD = 11.6$)、気疲れ4項目 $M = 20.2$ ($SD = 5.23$)、情動吸収3項目 $M = 12.0$ ($SD = 3.8$)、情動直感2項目 $M = 8.4$ ($SD = 2.5$) であった。
- 7) 感覚を発達させるのに、例えば、粘土作業 (clay work) などがよいとされる (Aron, 1996, p.222)。高敏感者の心の発達として、例えば、感情機能に問題が

出やすく、感覚機能を磨いていくなかで、最終的には直感機能を深めることに行き着く、といった順序が考えられる（桑原、2015を参照）。

引用文献

- Acevedo, B.P., Aron, E.N., Aron, A., Sangster, M.D., Collins, N., & Brown, L.L. (2014). The highly sensitive brain: An fMRI study of sensory processing sensitivity and response to others' emotions. *Brain and Behavior, 4*, 580-594.
- Arnd-Caddigan, M., & Stickle, M. (2018). A psychotherapist's exploration of clinical intuition: A review of the literature and discussion. *International Journal of Integrative Psychotherapy, 8*, 79-102.
- Aron, E.N. (1996). *The highly sensitive person: How to thrive when the world overwhelms you*. New York: Broadway Books.
- Aron, E., & Aron, A. (1997). Sensory-processing sensitivity and its relation to introversion and emotionality. *Journal of Personality and Social Psychology, 73*, 345-368.
- Aron, E.N., Aron, A., & Jagiellowicz, J. (2012). Sensory processing sensitivity: A review in the light of the evolution of biological responsivity. *Personality and Social Psychology Review, 16*, 262-282.
- Aron, E.N., Aron, A., Nardone, N., & Zhou, S. (2019). Sensory processing sensitivity and the subjective experience of parenting: An exploratory study. *Family Relations*. [online early view]
- Aron, A., Ketay, S., Hedden, T., Aron, E.N., Rose Markus, H., & Gabrieli, J.D. (2010). Temperament trait of sensory processing sensitivity moderates cultural differences in neural response. *Social Cognitive and Affective Neuroscience, 5*, 219-226.
- Beebe, J. (2004). Understanding consciousness through the theory of psychological types. In J. Cambay and L. Carter (Eds.), *Analytical psychology: Contemporary perspectives in Jungian analysis* (pp.83-115). New York: Brunner-Routledge.
- Beebe, J. (2006a). Psychological types. In R.K. Papadopoulos (Ed.). *The handbook of Jungian psychology: Theory, practice and applications* (pp.130-152). New York: Routledge.
- Beebe, J. (2006b). Evolving the eight-function model. *Bulletin of Psychological Type, 28*, 34-39.
- Beebe, J. (2007). Type and archetype. *Australian Psychological Type Review, 9*, 1-6.
- Branjerdporn, G., Meredith, P., Strong, J., & Green, M. (2019). Sensory sensitivity and its relationship with adult attachment and parenting styles. *PLOS ONE, 14*, e0209555.
- Collins, A.M. & Loftus, E.F (1975). A spreading-activation theory of semantic processing. *Psychological Review, 82*, 407-428.
- Daniels, M. (1992). *Self-discovery the Jungian way: The watchword technique*. London: Routledge.
- Freud, S., & Breuer, J. (1896/2004). *Studies in hysteria*. New York: Penguin.
- Greven, C.U., Lionetti, F., Booth, C., Aron, E., Fox, E., Schendan, H.E., Pluess, M., Bruining, H., Acevedo, B., Bijtbeier, P., & Homberg, J. (2019). Sensory processing sensitivity in the context of environmental sensitivity: A critical review and development of research agenda. *Neuroscience & Biobehavioral Reviews, 98*, 287-305.
- Harms, R., Hatak, I., & Chang, M. (2019). Sensory processing sensitivity and entrepreneurial intention: The strength of a weak trait. *Journal of Business Venturing Insights, 12*, e00132.
- Jung, C.G. (1971). *Psychological types (The collected works of C.G. Jung, volume 6)*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- Jung, C.G. (1973). *Experimental researches (The collected works of C.G. Jung, volume 2)*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- Keirse, D. (1998). *Please understand me II*. Del Mar, CA: Prometheus Nemesis Books.
- 岐部智恵子 (2019). 感性性の高い子どもと環境からの影響—感受性反応理論からの示唆— 子ども未来紀行, 2019.8.2.
- 岐部智恵子・平野真理 (2019). 日本語版青年前期用感性性尺度 (HSCS-A) の作成 パーソナリティ研究, 28. [早期公開]
- 串崎真志 (2004). 心理的支えからみたウォッチワード・テクニク 同志社女子大学生活科学, 37, 63-68.
- 串崎真志 (2007). 相互ウォッチワード・テクニク (Mutual Watchword Technique) の試み 関西大学文学部心理学論集, 1, 11-18.
- 串崎真志 (2018). 高い感性性をもつ子ども (Highly Sensitive Child) の理解 関西大学人権問題研究室紀要, 76, 27-55.
- 串崎真志 (2019a). エンパス尺度 (Empath Scale) の作成 関西大学人権問題研究室紀要, 77, 37-54.
- 串崎真志 (2019b). 高い感性性をもつ人 (Highly Sensitive Person) は物事を深く考える(1) 関西大学人権問題研究室紀要, 78.
- 桑原晴子 (2015). 場面緘黙傾向の不登校女子の箱庭療法治療過程—リズムと身体症状に着目して— 箱庭療法学

- 研究, 27, 3-15.
- Lionetti, F., Pastore, M., Moscardino, U., Nocentini, A., Pluess, K., & Pluess, M. (2019). Sensory processing sensitivity and its association with personality traits and affect: A meta-analysis. *Journal of Research in Personality, 81*, 138-152.
- McPeck, R.W., Martin, C.R., & Breiner, J.F. (2016). Refining the definitions of sensing and intuition as measured by the MBTI instrument. *Journal of Psychological Type*.
- Meredith, P.J., Bailey, K.J., Strong, J., & Rappel, G. (2016). Adult attachment, sensory processing, and distress in healthy adults. *American Journal of Occupational Therapy, 70*, 7001250010p1-7001250010p8.
- 越智啓太 (2019). 日本版環境刺激感受性尺度の作成とその特徴 環境心理学研究, 7, 20.
- Orloff, J. (2017a). *The empath's survival guide: Life strategies for sensitive people*. Boulder, CO: Sounds True.
- Orloff, J. (2017b). Strategies for empaths and sensitive people. *Energy Magazine*, March/April, 15-18.
- Peña, J.J. (2019). The embodied intersubjective space: The role of clinical intuition in somatic psychotherapy. *Body, Movement and Dance in Psychotherapy, 14*, 95-111.
- Petchkovsky, L., Petchkovsky, M., Morris, P., Dickson, P., Montgomery, D., Dwyer, J., & Burnett, P. (2013). fMRI responses to Jung's Word Association Test: Implications for theory, treatment and research. *Journal of Analytical Psychology, 58*, 409-431.
- Pillard, N. (2018). C.G. Jung and intuition: From the mindscape of the paranormal to the heart of psychology. *Journal of Analytical Psychology, 63*, 65-84.
- 16personalities (2019). Personality types. <https://www.16personalities.com/personality-types>
- Stickle, M., & Arnd-Caddigan, M. (2019). *Intuition in psychotherapy: From research to practice*. New York: Routledge.
- Strickland, J. (2018). Introversion, extroversion and the highly sensitive person: What does it mean to be an extroverted highly sensitive person? *Psychology Today*. www.psychologytoday.com
- 高橋亜希 (2016). Highly Sensitive Person Scale 日本版 (HSPS-J19) の作成 感情心理学研究, 23, 68-77.
- Takahashi, T., Kawashima, I., Nitta, Y., & Kumano, H. (2019). Dispositional mindfulness mediates the relationship between sensory-processing sensitivity and trait anxiety, well-being, and psychosomatic symptoms. *Psychological Reports*. [Epub ahead of print]
- The Myers-Briggs Foundation (2019). MBTI® Basics. <https://www.myersbriggs.org/my-mbti-personality-type/mbti-basics/>
- 吉村貴子・前島伸一郎・大沢愛子・苧阪満里子 (2016). 言語流暢性課題に現れた認知症のワーキングメモリの特徴—言語流暢性課題にはワーキングメモリの中央実行系が関連する可能性がある—高次脳機能研究, 36, 484-491.
- Weyn, S., Van Leeuwen, K., Pluess, M., Lionetti, F., Greven, C.U., Goossens, L., ... Van Hoof, E. (2019). Psychometric properties of the Highly Sensitive Child scale across developmental stage, gender, and country. *Current Psychology*.
- 付記
本研究は研究・投稿に関する協力者の同意を得て実施した。
- 利益相反
著者はいかなる利益相反もないことを表明する。
- 著者紹介
申崎真志 1970年生まれ。1999年大阪大学大学院人間科学研究科修了，博士（人間科学）。2004年から関西大学文学部に勤務。2011年，教授。Highly Sensitive Personの共感的側面に関心がある。著書に「共感する心の科学」（風間書房）。Correspondence concerning to this article should be addressed to Mr. Masashi Kushizaki at mkushizaki@goo.jp.
- 要旨
感覚処理感受性は聴覚・視覚・触覚・嗅覚などの情報を強く深く処理する人格特性である。これまでの研究によると，感覚処理感受性の高い人（高敏感者）は，カール・ユングの性格論という直感が主機能だといわれる。そこで本研究では，感覚処理感受性の高い人は，言語連想検査において直感的なワードを想像しやすいかどうかを検討した。大学生の参加者（ $N = 15$ ）がウォッチワード・テクニク（Daniels, 1992）を体験したのち，高敏感者尺度とエンパス尺度を評定した。その結果，直感ワードの頻度は，高敏感者尺度の高低群で違いはなかったが，高敏感者尺度やエンパス尺度が高いほど，ウォッチワード・キーの解釈をびったりくると感じていた。これらの結果を考察するためには，さらなる研究が必要である。
- キーワード：感覚処理感受性，ユングの性格論，直感